

(一社)日中文化振興事業団 会報 (旅行特集2号)



旅行特集2号 2025年11月03日(月)
(一社)日中文化振興事業団 主催
編集者 胡金定(甲南大学名誉教授)
電話 090-3350-8368
E-mail kokintei-1@mpd.biglobe.ne.jp

(一社)日中文化振興事業団による『胡先生と行く 雲南省・四川省の旅』企画

2024年10月11日～18日、一般社団法人日中文化振興事業団が主催する「胡先生と行く 雲南省・四川省の旅」7泊8日間で中国雲南省麗江市、四川省成都市、樂山市へ友好交流をしてきました。

今回の旅行を記念に参加者全員に旅行記や感想文を書いて頂き、「(一社)日中文化振興事業団会報」(旅行特集号)に掲載しました。参加者の氏名(順不同、敬称略)を下記の通り

若月章、井上一・さち子、秦爽、余保充徳、竹田昇・清美、高木優次、増田和俊、岡田達也・直子、古瀬裕功、久野正博、中島章雄、鴻原明子、金馬悦子、吉田豊昌・まゆみ、陸洋、胡金定 (参加者20名)

麗江・成都ツアーに参加して

井上 一

昨年の「赤壁の旅」で味わった、雨の竹林や金木犀の香りが漂う長江流域のしっとりとした風情とは一味違い、今回の「麗江・成都の旅」は、中国の雄大な自然を満喫する旅となりました。

二日目に訪れた世界遺産「玉龍雪山」では、ロープウェイで一気に標高4506メートルまで駆け上がり、眼前に広がる迫力満点の氷河パノラマを堪能することができました

フェイスブックに最高点まで登った写真を投稿したところ、「凄すぎます!」と言ったお褒めの言葉を多くいただき、結構いい気になっております。

ついで訪れた世界遺産の「都江堰」も、2300年前の土木技術が未発達の中、よくぞこれだけの水中ダムを造りあげたものだと、その壮大な構想と技術力に圧倒される思いでした。しかも、それが現在も使われている水利施設であると聞いて、二度ビックリ。

これらのスケールの大きさは、日本の世界遺産と比較しても桁違いであり、改めて中国の広大さを実感しました。スケールの大きいことが必ずしも良いことというわけではありませんが、とにかく中国はスケールが大きいというのが実感でした。

このような広大な大地で育つ人々は、自然とスケールが大きくなるのではないかと。そう考えると、「三国志」の登場人物たちも、私が抱いていたイメージ以上に良いほうにも悪いほうにも、遥かにスケールの大きな存在であったのだろうと想像が膨らみます。

昨年の旅をきっかけに、「呉」に視点をあてた本を書くことができたのですが、今回もまた、老後のボケ防止も兼ねて、何か新しい挑戦を始めてみたいという気持ちにさせられました。

少しだけ残念だったのは、夜の「麗江古城」がまるで賑やかな繁華街のようになっていたことです。あちこちでバンドの音や今風の歌が鳴り響き、若者の夜の街といった雰囲気、高齢者にとっては、少々落ち着かないものでした。高倉健さんとチャン・イーモウ監督が映画を撮影した当時のような、素朴な昔ながらの風情を味わえなかったことが、少し心残りです。しかし、そんなこともかき消すほどの新しい経験ができた旅でした。

最終日の朝、胡先生が楊貴妃ゆかりの華清池と西安事件の話をされ、「来年は西安に行きます」と宣言されました。これを聞き、来年も夫婦ともに元気で旅に参加できるよう決意を新たにしました。

まだまだ書きたいことは尽きませんが、字数の制限上、感想はここまでとさせていただきます。最後に、昨年に引き続き、素晴らしい旅行を企画・引率して下さった胡先生に、心より感謝申し上げます。



七泊八日の旅を終えて

井上さち子

今回の七泊八日の旅は、最高齢者として、皆様にご迷惑をおかけせぬよう、気を引き締めて参加させていただきました。初めてお目にかかる方もいらっしゃいましたが、皆様と楽しく交流させていただき、充実した実り多き旅となりました。

広大な中国の文化と歴史に触れることができました。特に二日目に訪れた玉龍雪山は、ロープウェイで標高4506メートルまで上がるとあって、その雄大さに圧倒されました。高山病とはこのような症状かと、初めて酸素ボンベを使いながら痛感いたしました。

東巴文字の学習も大変興味深いものでした。七日目の峨眉山は、あいにくの雨模様ではございましたが、皆様と励まし合いながら前へ進めたことで、無事に登りきることができたと思います。

皆様と楽しく過ごした七泊八日は、本当に忘れがたい、素晴らしい思い出となりました。お世話をしてくださった胡先生をはじめ、同行された皆様に、心より深く感謝申し上げます。

もっと中国が好きになってね

陸 洋

私は1996年留学生として来日しました。あっという間に29年が経ちました。個人の性格などが原因でなかなか日本人の友たちができなくて、いつか日本の方と一緒に旅行に行けたら友たちができるかと思いつつ機会を探してきました。

今回はとても幸運にも定員を満たす寸前に応募ができました。しかし旅行中どうやって皆様と接すればいいのか少々不安を抱えながら出発しました。

初日の夕食は珍しい「きのこ鍋」でとっても美味しかった。二日目の玉龍雪山は人生初の高海拔の山で高山病反応があって、ちょっと辛かったのですが団員の皆さんから温かい応援の言葉をたくさんいただき、山頂に一番近いポイントまで登れました。山頂の雪と氷を見た瞬間その美しさに感動しました。

三日目ガイドの勧めで乗馬体験をし、途中散策した湖が鏡のような美しい青空が湖面に映り幻想的で皆様も大変うれしく、記念写真を撮りながら冗談を交え、より一層友情を深めました。

その後交流団は成都に向かい、一番目の見学地が夢にも見て行きたかった「三星堆博物館」、何千年前の古代人が作った青銅器と金具に驚くばかり、同行の皆様も感激し中国文明の凄さを改めて感じました。

6日目、日中文化振興事業団の理事たちと一緒に樂山市に表敬訪問をしました。政府のトップの皆さんが温かく迎えてくれました。昼食も樂山の名物料理をたくさん用意して頂き、竹田先生なども手造りのプレゼントを贈呈されました。日中友好が政府間だけではなく、共に民間の交流も本当に大事で意義がある活動と改めて感じました。

最終日の7日目、若月さんが体調を崩し、私が通訳として一緒に病院に行くことになりました。樂山市の外事局の陳さんは2回に渡って病院に来まして若月さんの病状確認と医師の手配をしました。病院のスタッフも看病中ずっと若月さんを外国の友人と呼び、とても親切かつ迅速に対応してくれました。日本在住の中国人として本当に皆様を誇りに思っており心より感謝いたします。

短い八日間でありましたが沢山の出来事と文字で表現仕切れない美しい景色を見てきました。私と同じく皆様も一番感動したのが中国人の熱情と善良ではないでしょうか？

日中友好が永遠に続くことを心よりお祈り申し上げます。日本の皆様、もっと中国に行って、もっと中国を好きになってね！



想うことの大切さ

吉田 まゆみ



中国は広い、山は高い、歴史は古い、発展が速い。そして、声が大きく活力がある。6年前の中国の訪問時に比べて、道路の整備が進み、トイレが綺麗になっていた。山小屋のトイレは日本同様、その逆で困ったが。

玉龍雪山、パンダ谷などの自然が保護、整備されており、清掃が行き届いていた。三星堆は、管内が広く、美しく、大量の資料や遺跡が展示されていた。それは、考古学者などが、発掘から展示まで、ITを駆使し、神経を研ぎ澄まし、丁寧に扱い、分かりやすい展示を工夫されたからだろう。また、至る所に清掃を担ってくれる人たちがおられたことは言うまでもない。

この広大な国が、見る見る美しくなっていることに、すごいエネルギーを感じた。前回、天安門広場の見学中にトイレに行きたくて、毎日新聞旅行社の太田さんと広場横を疾走したことが懐かしい。

さらに、今回、初めてお出合いした方々とすぐに仲良くなって、交流できたことがとても嬉しかったし楽しかった。皆さんの様子から、きちんと準備されてきていることを知り、反省もした。

特に樂山市の政府要人に招かれた時に、手作り品を渡された岡田さんは、夜なべをして用意されていたとのこと。その真心に心を打たれた。また、その日の朝、胡先生は政府の要人と先に会談をされることになっていたが、グループラインが通じない私たち夫婦のために、早朝、出発時間の確認のためお電話をくださった。

準備不足を恥じる以上に、一人も取り残さないように連絡をいただいた、その想いに感動し、感謝した。

パンダ谷で胡先生に背を押されて、中国の女性たちに声をかけた増田さん。おかげでおいしいお菓子と果物をいただいた。あの女性たちの笑顔、活力、親切を忘れない。

彼女たちには、私同様に大切な家族が、仲間がいる。そのことを想うことは、絶対に侵略、戦争をしないことに通じる。

次の訪問時には、「皿をください」「わかりません」「困っています」「お元気で」「お疲れ様です」などは、話せるようにしよう。皆さん、ありがとうございました。

※ 樂山大仏とは、中国の四川省樂山市にある樂山大仏は、世界最大級の巨大な磨崖仏（岩壁に彫られた仏像）で、近隣の峨眉山とともにユネスコの世界遺産に登録されています。高さ71メートルを誇り、近代以前に造られた石仏としては世界最大とされています。

歴史：唐の時代、713年に海通法師が、岷江、大渡河、青衣江の合流地点で多発していた水難事故を鎮めるために発願し、90年の歳月を経て803年に完成しました。

千里走単騎

吉田 豊昌



千里走単騎とは、「千里の道も一步より」という意味だそうである。樂山大仏に向かう途中にあり、ガイドの易さんが教えてくれた。

大仏は、想像以上のスケールで山と一体化して、岷江を行きかう船を穏やかに見下ろしている。かつてここは、川の合流地点にあり、度々水難事故が起こっていた。(海通和尚)が山を削り、その土砂を川に投げ入れて川底が浅くなり、海難事故が減ったもう一つ、「都江堰水利施設」を訪れたが、同じようにそのスケールの大きさに圧倒された。以前、胡金定先生と、「北九州藩校の旅」でこれを真似た?「石井樋」を見学させていただいたが、比較にならないほどの迫力であった。ここも、岷江の洪水対策のために(李ひょう)という人物が立ち上がり、川の水を堤防で分けて、一部を成都の田畑に流し込むことを考え、実行した。築造を始めたのが紀元前256年からというのが驚きを隠せない。

いずれの場合もとてつもない発想で、困難に立ち向かった一人の人がいて、それに賛同し力を合わせた人々がいた。そして、たとえ道半ばで倒れても、後継者がその事業を継承して、未曾有の大事業が成し遂げられたのである。

まさに「単騎走千里」コツコツと岩盤を削ったり、竹の筒に小石を集めて川に沈めたりという、地道な気の遠くなるような作業の積み重ねであったに違いない。

今回の旅では、樂山市政府初め、「沢山の中国の方々大変お世話になった。心から感謝申し上げたい。また他の19人の参加者の皆様とも、心に残る愉快なひと時を過ごさせていただいたことにも、改めてお礼を申し上げます。

「以民促官」という周総理の言葉を、胡先生から教わった。日中交流は民間交流からと立ち上がった一人の人(単騎)がいて、それに賛同し心を合わせた私たちの旅が、千里の未来に向かって走りゆくことを信じて、これからも胡金定先生の元、一致団結して、仲良く楽しく、辛抱強く、体力の続く限り、日中友好の旅に参加させていただきたいと強く願っている。関係者の皆様、8日間本当に有難うございました。

今回はとても幸運にも定員を満たす寸前に応募ができました。しかし旅行中どうやって皆様と接すればいいのか少々不安を抱えながら出発しました。

初日の夕食は珍しい「きのこ鍋」でとても美味しかった。二日目の玉龍雪山は人生初の高海拔の山で高山病反応があつて、ちょっと辛かったですが団員の皆さんから温かい応援の言葉をたくさんいただき、山頂に一番近いポイントまで登れました。山頂の雪と氷を見た瞬間その美しさに感動しました。



麗江・成都ツアーに参加して

岡田 達也

→広州→麗江、旅行初日空路中に携帯電話へSIMカードの交換を試みましたが、簡単に交換できるはずが、できない。

昨年の武漢旅行時も空路中に、交換しましたが、今回はできない。蓋が閉まらない。着陸が迫る中、座席前の小さなテーブルで奮闘。隣に中国の青年が座っている、この人に聞こう、彼は私の奮闘振りをチラ見しており察してくれたようで、SIMカードのサイズを指摘。無事装着できました。彼が「通信できるか試して下さい」と着陸でテーブルを閉じ間一髪間合いました、お兄さんありがとう。

『トンパ文字』ワークショップでトンパ文字の学習には驚くことだらけでした、生きた象形文字に納得、1000年の歴史があり、世界記録遺産に登録されている、感慨深く漢字の起源源流を感じました、やっぱり中国文化は恩人です。文字があつての文化伝承、改めて隣国と深い縁を感じました。また、現在も使われていることに、少数民族ナシ族の強い誇りと並々ならぬものがあつたと思います。我々もマイノリティ等に関わらず、意思の強さを学びました。

今回、麗江・成都ツアーに参加して、中国文化、歴史にふれ、現地の方々と交流できました、学習もすることができました。SIMカードの挿入後起動の状態まで心配頂いた青年。ホテルで遅い時間まで、もてなしをして下さった民族舞踊演奏家。皆さん最後まで、なおその先まで、寄り添ってくれる真心を感じてなりません。家内はお掃除お姉さんのメモを大事にしています。

最後になりましたが、胡金定先生始め、参加者の皆様本当にありがとうございました感謝致します。

麗江・成都ツアーに参加して

岡田 直子

12日、麗江のホテルでオーナーのご配慮から民族衣装で古典音楽を奏でて歓迎頂き楽しく盛り上がり感激が込み上がってきました。皆で輪になり踊ったことも楽しい思い出ですまた、かねてより興味のあつた笛子を持参しておられ吹かせて頂きました。どこで購入できますか?の質問に、通訳頂いた陸さんが、私が通販で注文し、次のホテルへ配達してもらいましょう。念願だった入手もできました。陸さんに「謝謝」今思うと、プロの演奏家から笛を借りて吹かせてもらうなどでありえない。本当にありがとうございました。

連泊しました樂山市JHホテルはトイレ、シャワー室から外が丸見え、これも中国文化の一つかとしかし、ブラインドを解放して使用するには至らず、勇気はありませんでした。連泊を意識した訳でもなかったのですが、お疲れ様の思いで室内に備えられたメモ用紙に“お掃除ありがとうございます”とたどたどしく中国語で書きチョコレート(日本製)を

添え、朝食へ向かいしました。

部屋へ戻るおり、フロアーにいたお姉さんが走りより、チョコを持って「謝謝・・・」言葉はお互い、「謝謝」しかわかりませんでした。暖かいものを感じました。部屋に入るとお姉さんのメモがありました(写真)。アメニティグッズが多くあるようにも感じたのは、気のせいでしょうか。

樂山市政府と昼食に際し、手作りのつまみ細工に文字を添え10個プレゼントさせて頂きました。「真心を感じます、友情の品として頂きます。日本に帰られましたら樂山のことをお話しください、ありがとうございます。と、暖かい言葉を頂きました政府の方々との希少な機会を頂きありがとうございます。

今回、麗江・成都ツアーに参加して、数々の中国文化にふれ、現地の方々と交流できました、学習もすることができました。

ホテルで遅い時間まで、もてなしをして下さった民族舞踊演奏家。お掃除メモに返事を書き、私達を見つけ駆け寄ってくれたお姉さん。

上記共通して感じるのが、最後まで、なおその先まで、寄り添ってくれる真心を感じてなりませんでした。お掃除お姉さんのメモはいまも大事にしています。

最後になりましたが、胡金定先生始め、団長さん役員さん、そして、参加者の皆様本当にありがとうございました、感謝がつきません。「謝謝」

悠久の歴史と大自然の中国 第六次訪中で感じたご縁

若月 章



今回、日中文化振興事業団として企画した「雲南省麗江・四川省成都、樂山」を訪ねる20名による訪中交流事業を大成功に終えることが出来ましたこと、参加団員皆様お一人お一人のご協力の賜と大変に感謝いたしております。あろうことか、自分自身が体調を崩すとは夢にも想定していませんでした。皆様には、道中大変ご心配かけきづかっていただき本当にすみませんでした。改めてお礼申し上げます。

旅行企画内容については、胡金定先生の学識・人脈・信頼・ご縁を駆使されて、いかに参加者の皆様に喜んでいただけるか、真の中国の姿ありのままを知っていただけるか

そして一期一会でどれだけの人的交流ができ日中間のゆるぎない友情関係を一人一人が築けるかというものだと思います。

8日間の旅行の中でも、一度も他の日本人旅行者に出会いませんでした。昨年の湖北省でも同様でした。国家間の関係がギクシャクしている今だからこそ、民間人の私たちが人と人との絆を創るべく交流することに変な意義があります。今回、WeChatに3人の友人を加えることが出来ました。一人は、玉龍雪山に向かうバスの中で前に座る25歳の青年が日本語で話しかけてくれました。武漢から来ていた日本語を学んだ青年でした。就職はまだ決まらないと言い、日本に留学したいとも語っていました。日本に来たら必ず連絡もらうようにしました。二人目は、樂山市外事局の女性課長さん、最終日私が体調崩し病院搬送に尽力してくださり、二度まで病院を訪ねてくださった方です。何度もお礼を言って、「この御恩は一生忘れません」と送ると、彼女から「とても小さいことですので、恩とか言わないでください。病気になった時、樂山市、病院、医師と経験不足の私を信頼していただき、嬉しく思います。友好とは、実は信頼、支持、理解のやり取りではないかと心から信じています。」と返信がありました。私は、本当に心打たれました。三人目は、ホテルのロビーでたまたま会ったシンガポール人の壮年、年を聞くと同い年と分かりWeChat交換したら、毎日連絡が来ます。このように偶然の出会いから友情のネットワークが広がります。

最後に、最も不思議だったのは、樂山市での公式会見の場に出席させていただき、一人ひとりお話しする機会がありました。樂山市の友好都市の中に新潟県柏崎市があることを知りました。それも1825年200年前のご縁、すなわち四川省峨眉山麓から『峨眉山下橋』のある木柱が約6000Kmを川の流れや海上を経て柏崎市宮川浜に流れ着いたことから、江戸時代の僧良寛が漢詩を作り1990年8月詩碑が設置され、友好交流が正式化されたことが分かりました。柏崎市は父の故郷であり、また日本軍国主義と戦い獄死された偉大な教育者で創価学会初代会長牧口常三郎先生の出身地でもあります。そういうご縁で今私はここにいますと趙書記にも申し上げることが出来ました。その牧口先生が言われた「認識せずして評価することなかれ」の精神で、自分の身近な友人・知人から日中友好の対話を胡金定先生とともに進めていく決意です。

峨眉山(がびさん)とは

峨眉山は、中国四川省にある景勝地・仏教の聖地であり、ユネスコの世界複合遺産(文化遺産と自然遺産)に登録されています。

最高峰は万仏頂で、標高は3,099メートルあります。中国四大仏教名山(五台山、普陀山、九華山、峨眉山)の一つに数えられており、普賢菩薩の霊場として知られています。山中には多くの古寺があり、1世紀に中国最初の仏教寺院が建てられた場所とも言われています。

険しい地形と美しい自然風景で知られ、「峨眉天下秀(峨眉は天下で最も美しい)」と称されています。標高差が大きいため自然環境が変化に富み、「地質博物館」「動物楽園」「植物王国」とも呼ばれています。

1996年に「峨眉山と樂山大仏」の名称で世界文化・自然複合遺産に登録されました。山頂の金頂からは、条件が揃えば雲海などの壮大な景観を望むことができ、また48メートルもの高さの「十面普賢菩薩像」も見どころの一つです。